

田中康夫「TPPは米連邦」

国民新党・新党日本の田中康夫氏が国会質問や雑誌で環太平洋連携協定(TPP)への参加に警鐘を鳴らしている。論点の1つは米国主導。

「米国は貪欲に国益を追求するデモクラシー大国だ。そもそも国家とは国益を追求してナンボの存在。米国は中国抜き自由貿易圏づくり、かつてアジアにも展開されていた英連邦に代わる米連邦づくりを目指している」

もちろん中国も貪欲に国益を追求するナショナリズムの大国である。「いまや日本の貿易は輸出入とも中国が最大の相手。尖閣でぎくしゃくした関係をさらに悪化させる、あ

つれきを生むのは必至だ」

次に推進しようとしている菅首相、前原外相への批判。

「前原外相が『GDPの1・5%

しか占めていない農林水産業を守るために残り98・5%が、かなりの部分で犠牲になっている』と言った。GDP比わずか1

・1%の米国では農業生産者への手厚い『直接払い』が堅持されている」

そして田中氏は、TPPは農業問題だけでなく、と指摘する。

「農業、工業にとどまらず、金



4099

A(自由貿易協定)を強力に進めている。ASEANの10カ国とチリの間で発効済み。

米国、EU、ペルーとは締結して発効待ち。韓国は『FTAこそ繁栄の道だ』というスタンスだ。日本はFTA交渉に遅れをとっているのに、

融、保険、医療、さらに電波・放送、看護師・介護士のサービスまでゼロベースになる仕組みだ。近い将来、メディア王のマードック氏が10人も20人も上陸してくる話だ」

さらに韓国にしたかき。

「韓国はTPPに参加せず、FTA

なぜTPPが先にありき、なのか」田中氏は8日の衆院予算委員会で答へ押し出した。

「韓国にとって日本からの輸入額が15%を占める。韓国はTPPに参加せず米国ともEUともFTA協定にこぎつけた。日本は手をこまねいている」

これへの菅首相の答弁。

「農業の再生と国を開くという開国とを両立させるのが私の責任だ」玄葉光一郎国家戦略担当相。

「大変鋭い指摘をいただいた。2国間のEPA(経済連携協定)を加速させる。これが実は最大のポイントだ」(政治評論家)

中国とのあつれき必至